

万博記念公園春の渡り鳥調査結果 (2022 年度)

大阪府日本万国博覧会記念公園事務所

製作：吹田野鳥の会

調査期間 2022 年 4 月 15 日～5 月 5 日

調査目的 渡り鳥が好む環境を知り、鳥が利用する環境を創生するための
植生管理の基礎資料とする

調査対象 ①ヒタキの仲間(ヒタキ科・ムシクイ科・ウグイス科の鳥)

②スズメ科ニュウナイスズメなどの山野の鳥

③コチドリ・タシギなど水辺の鳥

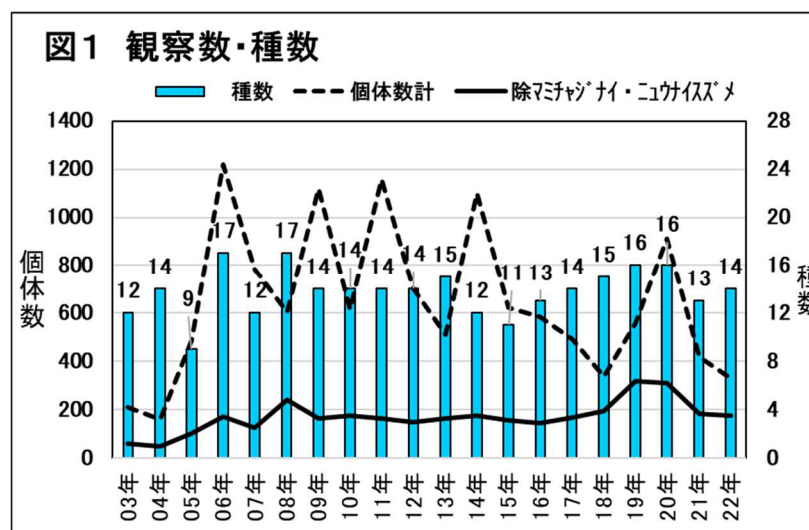
調査方法 園内を一巡し、渡り鳥を観察した数および場所を地図上にプロット

備 考 鳥類目録7版に準拠

1. 春の渡り鳥全般の状況

1) 観察した種類と個体数(図1、別表1、2参照)

- ・2022年の渡り鳥の観察種数は14種、2020年まで5年ほど増加傾向が続いていたが、今年は2日雨により調査できない日があり、昨年に比し1種ふえたものの14種で、これまで20年間の平均レベルにとどまった。
- ・個体数は2020年911羽に比べ1/3の326羽、これまで20年間では下位3番目の低レベルとなった。しかし、変動の大きいニューナイスズメ(及びマミチャジナイ)を除いた個体数では176羽となり、上位6番目であった。
- ・チドリ科のコチドリは2羽と、昨年13羽から激減した。
一方シギ科タシギを4/15～4/23まで連日1～4羽確認し18羽となった。
サンショウクイ科サンショウクイを2羽確認した。
- ・ウグイス科のヤブサメ1羽、ヨシキリ科オオヨシキリ1羽を確認した。
ムシクイ科ではエゾムシクイ4羽で昨年14羽より大幅減、センダイムシクイも28羽と昨年42羽より減少した。
- ・ヒタキ科ツグミ属はアカハラが30羽(昨年28羽)、クロツグミ2羽(昨年1羽)、コマドリ属コマドリ2羽(昨年1羽)で、昨年とほぼ同レベルにとどまった。
- ・ヒタキ科キビタキは73羽(昨年53羽)より少し回復したが、最大142羽の2019年に比し半数にとどまっている。
オオルリは3羽(昨年4羽)と20年間の最低記録となった。
コサメビタキは10羽で昨年18羽より大きく減少したものの、20年間では昨年に次ぐ2番目の記録となった。
- ・スズメ科ニューナイスズメは150羽となり、一昨年601羽より激減、昨年232羽に比しても大幅減となった。
- ・サギ科、カッコウ科、アマツバメ科、キツツキ科、カササギビタキ科、ムクドリ科、ホオジロ科の渡り鳥は観察できなかった。



2. ヒタキの仲間の状況

1) ヒタキの仲間の観察数

- ・春の渡り鳥のメイン種であるキビタキ・アカハラ・センダイムシクイを中心とするヒタキの仲間(ヒタキ科、ムシクイ科、ウグイス科)の観察数は 153 羽となり、昨年 164 羽に比し若干減となった。
- ・図 2 に昨年、今年と、これまで 20 年間平均の日別の観察数を示した。昨年は前半少なく、後半に多かったが、今年は逆に前半が多く、後半の観察数が少なかった。

2) ヒタキ科キビタキ、オオルリ、アカハラの年別観察数

- ・ヒタキ科の主要 3 種についての年別観察数を図 3 に示した。
- ・キビタキはこの調査が始まって以来増加傾向が続き、2019 年には 142 羽と過去最高を記録したが、最近 3 年間はその半数程度にとどまっている。

これまで万博公園の森の成長が薄暗い林を好むキビタキ増加につながっていると推定してきていた。最近、新しい「万博の森育成計画」により常緑樹林から落葉樹林への樹種転換がスタートしているが、その影響がキビタキなどにどう出るのか、来年度以降も注目したい。

- ・オオルリは 2003 年調査開始当初、キビタキの個体数を上回っていて、2006 年には 34 羽と最大数を記録していた。その後低レベルで推移していたが、2020 年は久しぶりに 20 羽に回復したので期待していた。しかし、昨年 4 羽、今年 3 羽と最低記録を更新している。

- ・アカハラは年により変動があり、2008 年に最大 98 羽を記録したが、翌年以降減少傾向が続き 2015 年には 8 羽と最低を記録した。その後徐々に増加傾向にあり、一昨年は 93 羽と過去 2 番目を記録したが、昨年 28 羽、今年 30 羽と、一昨年の 1/3 レベルにとどまっている。

図2 ヒタキ3科日別観察数

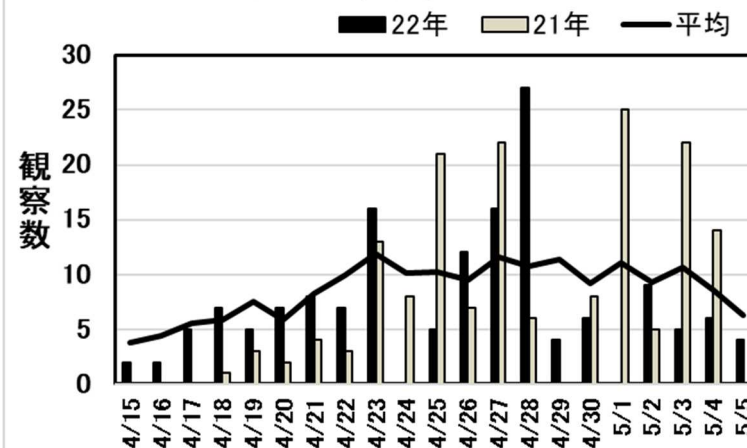
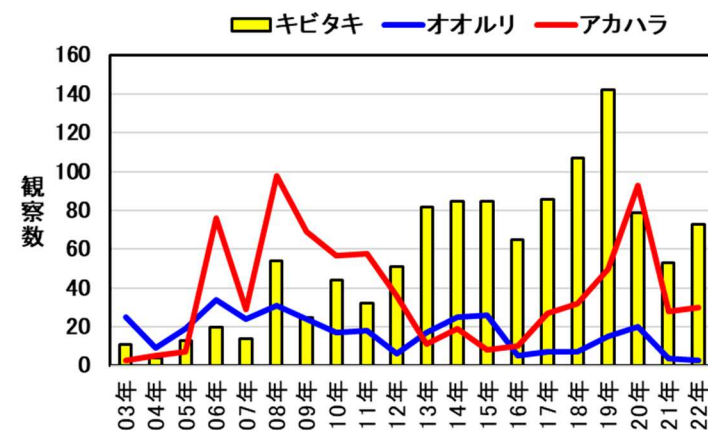


図3 ヒタキ3種 年別観察数



3)ヒタキ科 キビタキの観察数

- ・キビタキの昨年と今年、および 2003～2022 年平均の日別観察数を図 4 に示す。
- ・今年は前半ほとんど出なかったが 4/21 から多くなり 4/28 に 14 羽と過去最大レベルを記録した。しかし調査期間後半は低レベルとなり、トータルでは昨年(53 羽)よりは多いものの 73 羽にとどまった。
- ・図 5 に 20 年間の年別観察数を示した。2012 年までの前半 10 年間で 268 羽、2013 年以降後半 10 年間では 857 羽と 3 倍増となった中、2022 年 73 羽は低レベルであった。
- ・最近 3 年間は 2019 年に 142 羽と過去最高を記録したが、今年はその半分にとどまった。
- ・暗い常緑樹林が好きなキビタキが、現在の森づくり(目標林型が落葉樹林)計画の進展によりどう変化するか、今後が気になるところである。

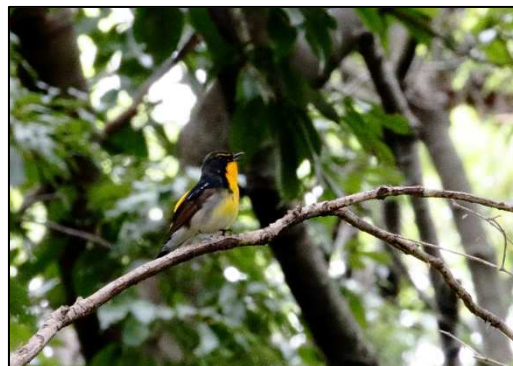
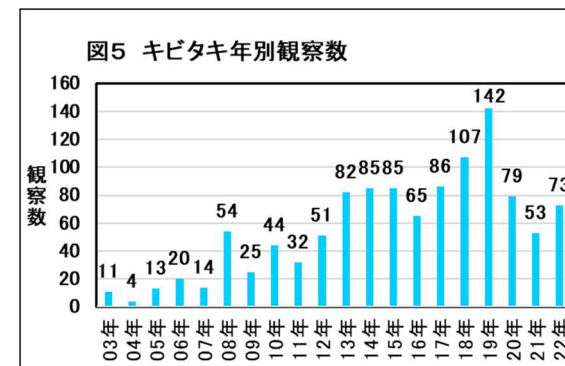
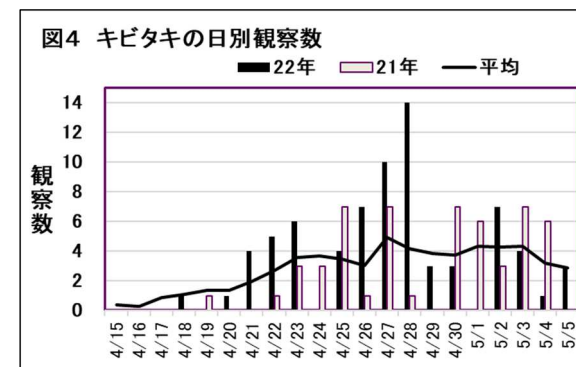
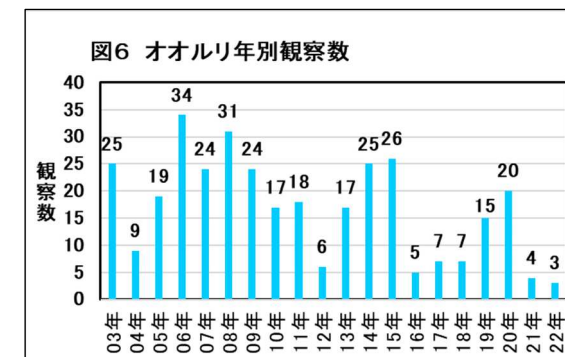


写真1 キビタキ 4/21 渡りの沼西



4)ヒタキ科 オオルリの観察数

- ・オオルリは 2020 年に 20 羽観察し回復したかに思われたが、昨年 4 羽、今年は 3 羽にとどまり、激減した。
- ・図 6 に示すように、調査をスタート直後の 2003～2007 年はキビタキ図 5 より多かった。2012 年までの前半 10 年間で 182 羽であったが、2013 年以降後半 10 年間で 129 羽と 2/3 に減少しており、特に昨年 4 羽、今年 3 羽と過去 20 年の最低記録を更新となった。
- ・春の渡り時に都市公園を通過する鳥として、また大阪近郊の山地に繁殖する鳥として、「オオルリ」「キビタキ」と並び称されている 2 種であるが、万博公園ではキビタキの後塵を拝している。今後の森づくり計画進展の影響が、両種にどう出るか注目したい。



5)ヒタキ科コサメビタキ、アカハラ、クロツグミ、コマドリ

・図 7 にコサメビタキは年別観察数を示したが、昨年が過去最高 21 羽であったのに対し、今年は半減 10 羽にとどまった。それでも、20 年間では昨年に次ぐ第 2 位の記録であった。

・図 8 にアカハラの日別推移を示したが、今年は昨年と同じ 4 羽/日(4/19)が最大、観察日数も昨年(12 日)とほぼ同じ 13 日にとどまった。

・この結果、図 9 のアカハラの年別観察数を見ると、今年は 30 羽と昨年 28 羽と同レベルにとどまった。一昨年は 93 羽と 20 年間のピーク近くになっていたが、ここ 2 年はその 1/3 にとどまっている。

・これまでの観察数は
最大 2008 年 98 羽
最小 2003 年 3 羽
で、年による変動の大きい鳥である。



写真2 4/19 梅林北



写真3 5/4 はす池東

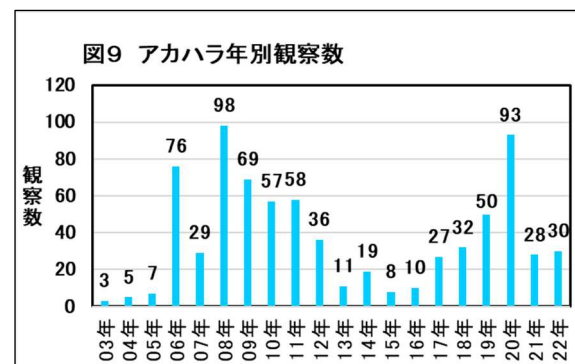
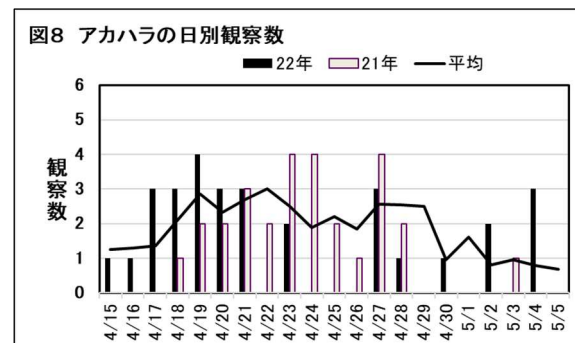
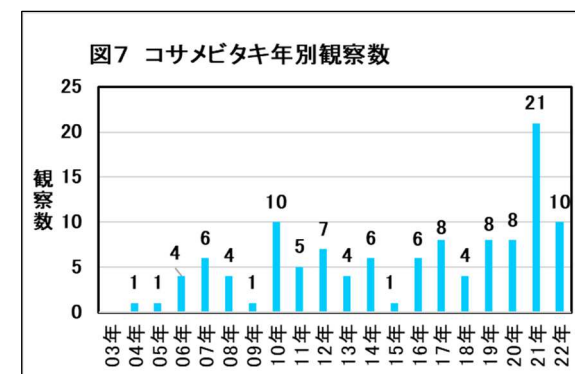
・20 年間を前半・後半に 10 年ずつで分けると、

前半 10 年 340 羽

後半 10 年 308 羽と、後半にやや少ないもののほぼ拮抗している。

・クロツグミは 2019 年に 11 羽も観察したが、2020 年 2 羽、2021 年 1 羽、2022 年 2 羽と、低レベルが続いている。20 年間では観察できなかった年が 7 回、1 羽しか観察できなかった年が 4 回と、稀な種でありやむを得ない。

・コマドリが 4/18 に 2 羽確認、昨年(1 羽)に続いて 2 年連続で観察できた。20 年間で 19 羽観察しているが、観察できなかった年が 11 年もあり、万博公園では非常に稀な鳥である。



6) ムシクイ科センダイムシクイ、エゾムシクイ

- ・センダイムシクイはここ 3 年 40 羽を超える高レベルが続いていたが、今年は 28 羽にとどまった。
- ・図 10 で日別推移を見ると、センダイムシクイは昨年が後半集中型であったが、今年は、観察数は多くないものの調査期間全体を通して観察できた。しかし、1 羽ずつの観察日が 7 日と多く、トータル 28 羽と、昨年 42 羽の 2/3 にとどまった。
- ・一方エゾムシクイは昨年 14 羽が、今年 4 羽に激減した。
- ・図 11 にセンダイムシクイ・エゾムシクイの年別観察数を示したが、両種とも昨年比減少、中でもエゾムシクイは昨年比 1/3 に激減している。
- ・鳥類目録第 7 版で種として分離独立したムシクイ科のメボソムシクイ・オオムシクイの観察を期待しているが、昨年に続いて観察できなかった。両種とも渡りの時期のセンダイムシクイなどより遅い鳥として知られており、当調査期間 5/5 までには、渡っていなかったと思われる。



写真4 ニュウナイスズメ 4/19
日だまりの池西

3. その他の渡り鳥

1) スズメ科ニュウナイスズメ

- ・ニュウナイスズメの渡りは例年 4 月中旬がピークで、5 月初めまで続く筈が、今年は 4/27 で渡りが終わったようで、昨年(232 羽)より減少し 150 羽にとどまった。
- ・調査を開始し数年、2006 年ごろからニュウナイスズメは幾分遅れて咲くソメイヨシノの花や、コナラ・アベマキなどの花芽で、50~100 羽の大群を観察した。最近は季節変化(植物の春)が早くなった影響か、新緑の中にいる 10 羽以下の小群での観察が多い。

図 10 センダイムシクイの日別観察数

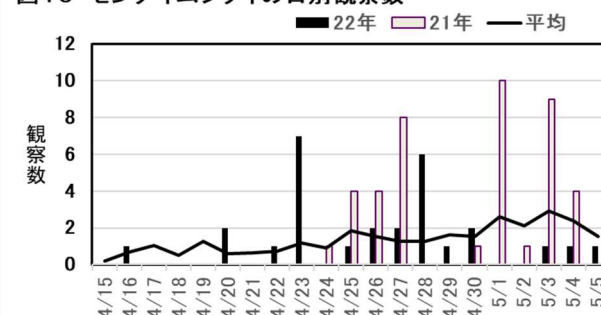


図 11 ムシクイ2種年別観察数

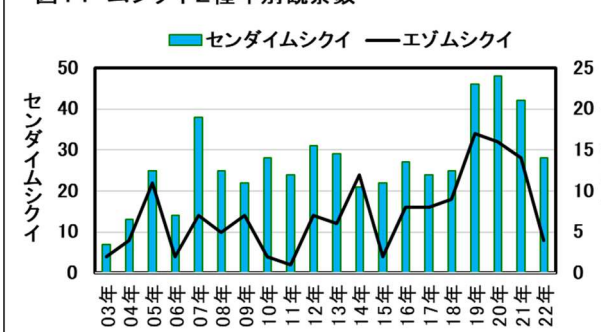
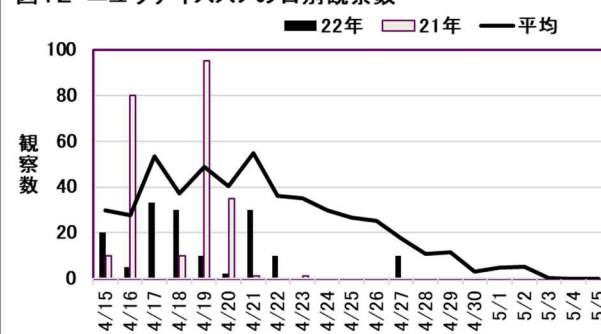


図 12 ニュウナイスズメの日別観察数



- ・ニューナイスズメは 1,000 羽～100 羽と、年によって大きく増減する鳥である(図 13)。
そんな中、今年は 150 羽と、20 年間の下から 3 番目の低い記録となった。

2) そのほかの渡り鳥

- ・チドリ科コチドリは 2 羽と昨年 13 羽から激減した。(図 14)。今年はコチドリがよく利用していた東の広場で連日大型イベントが開催され、エサ取り場所がなかったと思われる。
- ・シギ科タシギは過去最高の 18 羽確認した。みずすましの池の上流、池近くの草むらに 4/16～4/22、5/3 に、1～4 羽観察できた。昨年・一昨年も観察しているので、タシギはここにピンポイントで渡来していると思われるが、それほど魅力ある(エサの多い)場所とも思えず、なぜ来るのかわからない。

尚、タシギは冬鳥として観察できる筈の鳥であるが、この 3 年間渡り鳥調査時にのみ観察できるので、春の渡り鳥とした。



写真5 タシギ 2 羽 4/19



みずすましの池

写真6 タシギ 4/21

図13 ニュウナイスズメ年別観察数

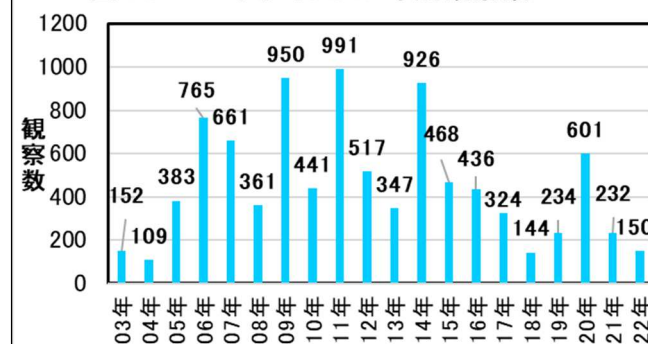
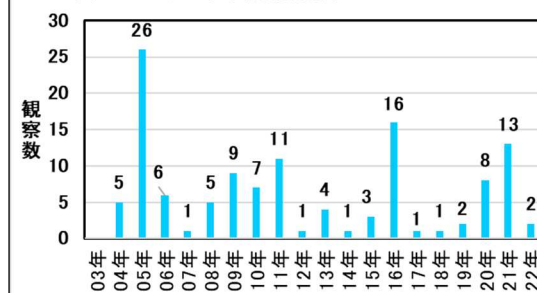


図14 コチドリ年別観察数



- ・渡り鳥ではこのほか、サンショウクイ科サンショウクイが 2 羽、ウグイス科ヤブサメが 1 羽、ヨシキリ科オオヨシキリが 1 羽観察できた。
- ・サギ科、カッコウ科、アマツバメ科、キツキ科、カササギビタキ科、ウグイス科、ムクドリ科、ホオジロ科の渡り鳥は観察できなかった。

4. 冬鳥ほか

1) ヒタキ科ツグミ、シロハラ

- ・2006 年よりツグミ・シロハラについてもカウントを開始した。ツグミは 1000 羽を越えたレベルが続き、2010 年 1400 羽をピークに徐々に減少傾向となり、2018 年は 358 羽まで減少した。2020 年は一転して 1469 羽と過去最高を記録するも、2021 年 1212 羽、そして今年は 527 羽と、17 年間の下から 2 番目の低記録であった。(図 15)
- ・一方シロハラは 2019 年 324 羽を記録した後、今年は 188 羽と減少している。
- ・今年は真冬からツグミ・シロハラが少なく、両種とも調査開始の 4/15 から例年より個体数が少なかった。両種は調査期間中に北帰行を始め、調査終了日前後にいなくなる傾向にあったが、今年はツグミ終認が 4/28、シロハラ終認が 4/29 と、例年より早く渡去してしまい、観察数が低くなった。(図 16、図 17)



↑写真7 ツグミ 4/19 夏の花百景

写真8 ツグミ 4/15 梅林北→

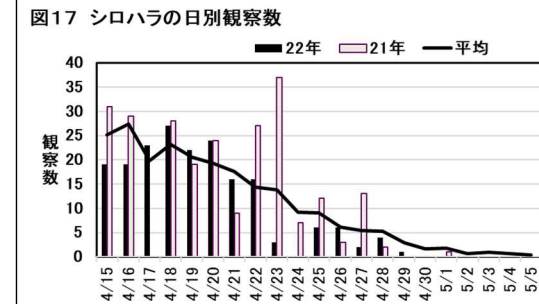
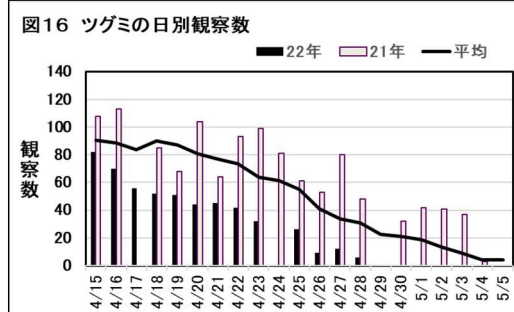
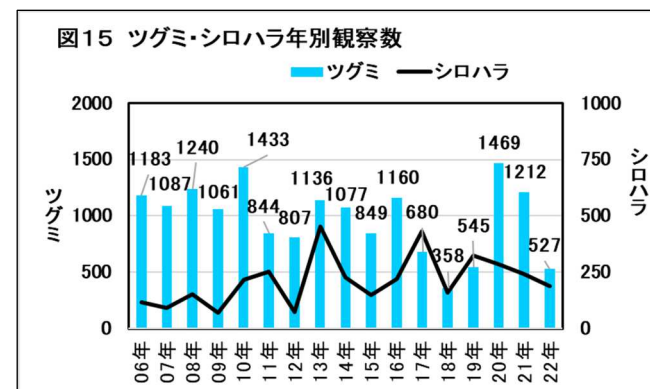


写真9 シロハラ 4/15 万葉の里

2)カモ科、ハト科、クイナ科など

- ・カモ科ではオカヨシガモが 4/15 に 1 羽観察できたが、翌日にはいなくなった。
- ・例年、水鳥の池でオンドリが観察できるが、今年は水鳥の池への遊歩道が閉鎖されており、確認できなかった。
- ・ハト科のアオバト期間中に 3 回 4 羽を観察した。
- ・クイナ科オオバン、2017 年から冬鳥として定住するようになったが、今年は 4/23 まで 1～2 羽確認できた。
- ・タカの仲間ではハイタカ 1 回、オオタカ 2 回観察できた。



写真 10 オオバン 4/19 水の広場



写真 11 オカヨシガモ 4/15 みずすましの池

3)アトリ科マヒワ・アトリ・シメ、ホオジロ科

アオジ、セキレイ科ビンズイ (表 1)

表 1 その他冬鳥

科名	種名	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	計	年平均
アトリ	マヒワ	0	1964	0	726	0	2	72	0	0	0	0	544	0	3308	254
	アトリ	286	11	0	39	23	113	109	55	387	20	375	38	202	1658	128
	シメ	206	440	0	123	70	3	123	55	23	226	204	10	73	1556	120
ホオジロ	アオジ	81	36	51	52	84	38	64	52	45	72	124	30	51	780	60
セキレイ	ビンズイ	17	7	0	3	8	4	1	11	2	5	8	9	18	93	7

これら 5 種の鳥は 2010 年からカウントしている。

- ・アトリ科の 3 種はいずれも、越冬数が変動する鳥。特にマヒワは 2011 年に 2000 羽近くカウントしたが、全く観察できなかった年が 13 年間に 8 回(年)もあり、調査でカウントしている冬鳥の中で最も変動の大きい種である。アトリ・シメも最大 400 羽前後～0 羽の間で変動している。
- ・今年はアトリが 202 羽、シメ 73 羽で昨年より増加したが、昨年 544 羽のマヒワが 0 羽となった。
- ・過去の記録では 2012 年がアトリ科 3 種、及びビンズイがいずれも 0 羽となり確認できなかった。この年は全国的に冬鳥が少なかったと新聞報道されていることを、早朝調査 2012 年で報告している。

・アトリ・マヒワ・シメの冬鳥だけでなく、留鳥のイカル・カワラヒワを含めたアトリ科の鳥は、冬はアキニレの実を主食にしているが、アキニレの実が無くなった春の調査時には、ハルニレが餌場になっている。

ハルニレは3月下旬に花が咲き、4月に軍配型の実がつき始めるが、それを待ち兼ねたように、アトリ科の鳥が集まってくる。

・今年ハルニレに来た4種の内、カワラヒワを除いた3種を右に4枚紹介する。

・春の渡り時はアキニレの実がないので見られないが、冬にアキニレを餌場としている鳥としては上記5種の外、稀に万博公園で観察できる冬鳥、コイカル・ウソも来ているのを確認したことがある。

・アオジはホオジロ科の鳥の中で唯一、毎年(冬)観察できる鳥である。草の実を主食にしているホオジロ科の鳥は、万博探鳥会を開始した頃、園内に草地が多かった関係で、ホオジロが留鳥(園内で繁殖)だけでなく、冬鳥のカシラダカ・ミヤマホオジロも観察できた。



しかし、園内が常緑樹林に変化し、草地が無くなったため、ホオジロさえも稀な鳥となり、アオジ以外の冬鳥はほとんど観察できなくなっている。

・そのアオジは昨年30羽が51羽に増加、ビンズイは18羽と昨年から倍増、この13年間では最高を記録した。(前頁 表1参照)

←写真16 アオジ 4/15 渡りの沼



↑写真12 シメ 4/15

↓写真14 アトリ雄 4/19

(学習の森)

↑写真13 イカル 4/15

↓写真15 アトリ雌 4/19



5. 留鳥その他



写真 17 ダイサギ 4/15 心字池



写真 18 アオサギ 4/19 砂の広場



写真 19 ハシブトガラス(巣材集め) 4/19 梅林北

- ・鳥は体が大きいほど警戒心が強いので人から離れて生活しており、近づくときすぐ逃げるといわれているが、サギの仲間 4 種、アオサギ・ダイサギ・ゴイサギ・コサギを比較すると、大型のアオサギ・ダイサギがむしろ人慣れしており、繁殖範囲、生活範囲を広げているように思われる。
万博公園で定例探鳥会を初めて開催した 37 年前、コサギが最も多く、よく観察出来たが、続いてゴイサギ・アオサギがいて、ダイサギはいなかった。それが今はアオサギが一番多く、ダイサギ・コサギと続き、ゴイサギはほとんど観察できなくなっている。
- ・このサギの変化は万博公園の環境変化ではなく、北摂周辺のサギの繁殖状況が影響していると思われる。環境省の繁殖地調査によると、40 年前に比しアオサギ・ダイサギが増加し、ゴイサギ・コサギが減少しているとのことで、全国的な状況である。
- ・ハシブトガラスにとって万博公園は、職住近接のカラス天国である。四季折々にエサとなる木の実があり、巣作りに適した木が数多くあるので、巣の数も多い。通常は 3 月に子育てを開始している筈であるが、写真 19 のハシブトガラスは巣作り中らしく、巣の中央、産座に近い所に入れる巣材と思われる、細い枝を集めている。

6. トータル観察種(別表-3、4)

- ・今年調査期間中に観察したトータルの種数は 54 種で、20 年間では過去最高の一昨年 63 種より 9 種減(昨年より 4 種減)となった。それでも調査 20 年間では第 8 位の記録(但し 54 種が 3 回目)で、平均 54 種と同一であった。(図 18 参照)
- ・今年の日別観察種数は平均種で 31.8 種と昨年(33.4 種)を下回った。図 19 より前半は 20 年間平均を上回っていたが、後半に入って平均を下回り、中でも 4/29 が 22 種、5/2 が 23 種と低レベルの日があった。
- ・全種の一覧表を別表 3、4 に示した。
- ・今年は調査した 19 日間とも観察できた種は 17 種
カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワで、昨年 16 種より 1 種増となった。
- ・昨年全日観察できて今年できなかったのはツグミ、逆に昨年全日観察できなくて今年できたのはヤマガラ、ハクセキレイの 2 種あった。
- ・今年の調査種数は 54 種にとどまったが、昨年観察できなかったのに今年観察できた種はオカヨシガモ、アオバト、トビ、イワツバメ、ヤブサメの 5 種、逆に昨年観察できたが今年観察できなかった種に、オシドリ、ミサゴ、チョウゲンボウ、モズ、ルリビタキ、イソヒヨドリ、キセキレイ、マヒワ、ホオジロと 9 種で、4 種減となった。
- ・この 20 年間の調査期間(4/15~5/5)に初めて観察できた種はオカヨシガモで 1 種であった。

図18 年別のトータル観察種数

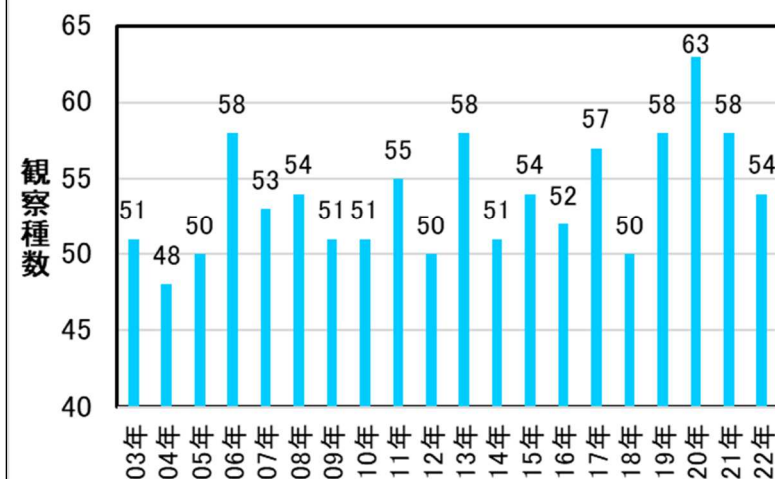
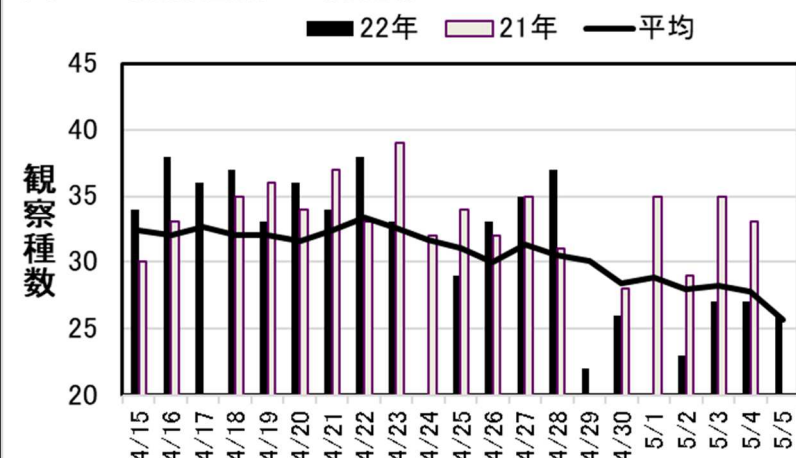


図19 観察種数 日別推移



- ・別表2より2003年～2022年の20年間に延べ399日間調査しているが、この調査期間のすべての日に観察した種はハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラの3種であった。
尚、スズメは初年度2003年に観察してない日が1日あったが、なぜかわからない。
- ・一方で、19年間の調査日380日に1日のみしか観察していない種としては、キジ(2012年)、オカヨシガモ(2022年)、チュウサギ(2012年)、クイナ(2014年)、ムナグロ(2006年)、ダイゼン(2010年)、クサシギ(2006年)、ユリカモメ(2003年)、サシバ(2015年)、サンコウチョウ(2016年)、ジョウビタキ(2020年)、ウソ(2013年)、ホオアカ(2013年)の13種記録されている。
- ・このうちキジについては昨年度の早朝調査で経緯を記したので省略するが、本来留鳥の筈が、樹林の生長で万博公園にいなくなった種である。
- ・チュウサギ、ムナグロ、ダイゼンは夏鳥であるが、休憩できる水辺がないため、東の広場などのシバ原に一時的に休んでいるところを確認されたと思われる。サシバは上空を通過するのみであるが、これからも観察が期待できる。サンコウチョウも万博公園の樹林の生長とともに、通過していくことが期待される鳥である。
- ・またオカヨシガモ・ジョウビタキは冬鳥として観察できる鳥なので、春の渡り時まで残ることがあると思われる。
ジョウビタキは毎冬の万博探鳥会で複数羽観察できるが、渡去日がツグミなどに比べると早く、早朝調査を開始する4/15にはいなくなっていることが多く、調査結果に出にくい種である。
- ・ホオアカは2013年に東の広場で観察した。
日本野鳥の会大阪支部が毎月定例開催している万博探鳥会でも観察したことがなく、またその後の早朝調査でも観察していないので、万博公園としてはこの早朝調査での1回のみの記録となっている。

7. 渡り鳥の観察場所について(別図①～⑤)

渡り鳥の観察した場所を別図①～⑤に示した。

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| ①-①2022 年、①-②2021 年 | ヒタキ科キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、ノビタキ |
| ②-①2022 年、②-②2021 年 | ヒタキ科アカハラ、クロツグミ、コマドリ、マミチャジナイ |
| ③-①2022 年 ③-②2021 年 | ムシクイ科センダイムシクイ、エゾムシクイ |
| ④-①2022 年、④-②2021 年 | スズメ科ニュウナイスズメ |
| ⑤-①2022 年、⑤-②2021 年 | コチドリ、サンショウクイ、オオヨシキリ、タシギ 他 |
| ⑥ 2022 年渡り鳥調査 | 標準コース図 (参考) |

春の渡り鳥として、多くの数を観察できたキビタキ、アカハラ、センダイムシクイ、ニュウナイスズメなどを中心に渡り鳥の好む場所を記述してみる。

- ① キビタキは自然文化園内の上津道・中津道間の常緑樹林を中心に利用しているのは昨年と同様である。
水車小屋・けやきの丘間の中津道南側樹林、あじさいの森・野鳥の森間の樹林などで多かった。
- ② アカハラは日本庭園の東側落葉樹林で観察できた。あとは園内にパラパラ確認される程度であった。
- ③ センダイムシクイは、上津道・中津道周辺の常緑樹林を中心に分布していた。昨年はあじさいの森周辺に多かったが、今年は集中している場所はなかった。
- ④ ニュウナイスズメは日本庭園東側樹林にまとまっていたが、50 羽以上の所はなかった。園内の緑葉樹林に数羽～20 羽程度の群がチューリップの花園西側樹林でまとまっていたほかは、ひょうたん池周辺などで観察できた。昨年多かったどんぐりの池、日だまりの池、観察の森、そして日本庭園はす池の北側樹林にはほとんどいなかった。
- ⑤ タシギは本来冬鳥として観察できる種と思われるが、春の渡り鳥調査に入ってから観察されるので、春の渡り鳥として記録した。昨年は1羽のみであったが、今年は18羽(最大4羽:4/17)を同一場所で観察した。
- ⑥ 今年はコース内に通行止め箇所があり、調査時の標準コースを設定したので、コース図を参考までに添付した。

以上

別表1 2022年 万博公園 早朝調査時に観察した渡り鳥の個体数

No	科名	種名	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	22年	21年	前年比	22年個体数				
																											4/15~4/21	4/22~4/28	4/29~5/5		
1	サギ	ササゴイ																													
2	カッコウ	ホトトギス										雨天								雨天											
3	カッコウ	ツツドリ										雨天								雨天											
4	アマツバメ	アマツバメ										中止								中止											
5	チドリ	ムナグロ																													
6	チドリ	ダイゼン																													
7	チドリ	コチドリ							1				1											2	13	▲11	1	1			
8	シギ	セイタカシギ																													
9	シギ	タシギ		1	4	2	2	2	2	2	2										1			18	1	+17	13	4	1		
10	シギ	チュウシャクシギ																													
11	シギ	クサシギ																													
12	キツツキ	アリスイ																													
13	サンショウクイ	サンショウクイ								1					1									2	4	▲2		2			
14	カササギヒタキ	サンコウチョウ																													
15	ウグイス	ヤブサメ				1																	1		+1	1					
16	ムシクイ	メボソムシクイ																													
17	ムシクイ	エゾムシクイ									1				1	2								4	14	▲10		4			
18	ムシクイ	センダイムシクイ		1				2		1	7		1	2	2	6	1	2			1	1	1	28	42	▲14	3	19	6		
19	ヨシキリ	オオヨシキリ																					1	1	3	▲2			1		
20	ムクドリ	コムクドリ																													
21	ヒタキ	クロツグミ	1		1																			2	1	+1	2				
22	ヒタキ	マミチャジナイ																													
23	ヒタキ	アカハラ	1	1	3	3	4	3	3		2				3	1		1		2		3		30	28	+2	18	6	6		
24	ヒタキ	コマドリ				2																		2	1	+1	2				
25	ヒタキ	コルリ																													
26	ヒタキ	ノビタキ																													
27	ヒタキ	コサメビタキ			1		1	1	1					3		2						1		10	21	▲11	4	5	1		
28	ヒタキ	キビタキ				1		1	4	5	6		4	7	10	14	3	3		7	4	1	3	73	53	+20	6	46	21		
29	ヒタキ	オオルリ								1						2								3	4	▲1		3			
30	スズメ	ニューナイスズメ	20	5	33	30	10	2	30	10					10									150	232	▲82	130	20			
31	ホオジロ	ノジコ																													
32	ホオジロ	クロジ																													
渡り鳥合計			22	8	42	39	17	11	41	20	18		6	12	27	27	4	6			9	6	6	5	326	417	▲91	180	110	36	
																				渡り鳥 種数計			14	13	+1	10	10	6			

別表2 2003年～2022年 万博公園早朝調査時に観察した春の渡り鳥

(前半・後半)

科名	種名	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	前年比	個体数計	03-12年	13-22年
サギ	ササゴイ		1		1						1					1							4	3	1
カッコウ	ホトギス											2			1								3	0	3
	ツツドリ						1						1			2							4	1	3
アマツバメ	アマツバメ				3		3				1												7	7	0
チドリ	ムナグロ				2																		2	2	0
	ダイゼン								1														1	1	0
	コチドリ		5	26	6	1	5	9	7	11	1	4	1	3	16	1	1	2	8	13	2	▲11	122	71	51
シギ	セイタカシギ																		4				4	0	4
	タシギ					1			1										5	1	18	+17	26	2	24
	チュウシャクシギ										1												1	1	0
	クサシギ			1																			1	1	0
キツツキ	アリスイ				1			1				1		1		1	1						6	2	4
サンショウクイ	サンショウクイ						2	1		8		1		2	5	1	2	13	18	4	2	▲2	59	11	48
カササギヒタキ	サンコウチョウ														1								1	0	1
ウグイス	ヤブサメ	2				1		4													1	+1	8	7	1
ムシクイ	メボソムシクイ	2	1		2				2	1							1	1					10	8	2
	エゾムシクイ	2	4	11	2	7	5	7	2	1	7	6	12	2	8	8	9	17	14	14	4	▲10	142	48	94
	センダイムシクイ	7	13	25	14	38	25	22	28	24	31	29	21	22	27	24	25	46	48	42	28	▲14	539	227	312
ヨシキリ	オオヨシキリ	1			1		1			2	2	1	1			2	1	2	5	3	1	▲2	23	7	16
ムクドリ	コムクドリ						1	1				4					1	1					8	2	6
ヒタキ	クロツグミ	2	2		1		5	2	2	4		1	1					11	2	1	2	+1	36	18	18
	マミチャジナイ				282		2	5		1	40				1	1		6	1				339	330	9
	アカハラ	3	5	7	76	29	98	69	57	58	36	11	19	8	10	27	32	50	93	28	30	+2	746	438	308
	コマドリ	2	1						1				2		2		2	7		1	2	+1	20	4	16
	コルリ		1				2					1						2					6	3	3
	ノビタキ				5	2	3		3	1	3								2				19	17	2
	コサメビタキ		1	1	4	6	4	1	10	5	7	4	6	1	6	8	4	8	8	21	10	▲11	115	39	76
	キビタキ	11	4	13	20	14	54	25	44	32	51	82	85	85	65	86	107	142	79	53	73	+20	1125	268	857
	オオルリ	25	9	19	34	24	31	24	17	18	6	17	25	26	5	7	7	15	20	4	3	▲1	336	207	129
スズメ	ニューナイスズメ	152	109	383	765	661	361	950	441	991	517	347	926	468	436	324	144	234	601	232	150	▲82	9192	5330	3862
ホオジロ	ノジコ					1													3				4	1	3
	クロジ	2	3											5			2						12	5	7
個体数計		211	159	486	1219	785	603	1121	616	1157	704	511	1100	623	583	493	339	557	911	417	326	▲91	12921	7061	5860
除マミチャジナイ・ニューナイスズメ		59	50	103	172	124	240	166	175	165	147	164	174	155	146	168	195	317	309	185	176	▲9	3390	1401	1989

種数	12	14	9	17	12	17	14	14	14	14	15	12	11	13	14	15	16	16	13	14	+1
----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

調査日	20	18	20	21	20	20	20	19	20	21	20	20	20	20	20	21	21	21	18	19	+1	399
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

別表3-1 2022年 早朝調査時に観察した鳥リスト(全種)

目録 No.	No.	科名	種名	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	22年観 察日数	21年観 察日数	前年比 増減	22年 個体数	21年 個体数	前年比 増減
5	1	キジ	キジ																											
24	2	カモ	オシドリ																							3	▲3			
26	3	カモ	オカヨシガモ	○																					1					
27	4	カモ	ヨシガモ																											
28	5	カモ	ヒドリガモ																											
30	6	カモ	マガモ		○	○	○			○	○	○		○	○							○		○	10	13	▲3			
46	7	カモ	キンクロハジロ																											
32	8	カモ	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
62	9	カイツブリ	カイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
74	10	ハト	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
78	11	ハト	アオバト		1				1													2			3		+3	4		4
127	12	ウ	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
139	13	サギ	ゴイサギ																											
141	14	サギ	ササゴイ																											
144	15	サギ	アオサギ	○	○	○	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○		○	○	○	○	17	17				
146	16	サギ	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○			16	6	+10			
147	17	サギ	チュウサギ																											
148	18	サギ	コサギ			○	○										○								3	15	▲12			
166	19	クイナ	クイナ																											
174	20	クイナ	バン																											
175	21	クイナ	オオバン	1	1	1	2	1	1	1	1	1													9	16	▲7	10	カウント せず	－
185	22	カッコウ	ホトギス																											
187	23	カッコウ	ツツドリ																											
192	24	アマツバメ	アマツバメ																											
195	25	チドリ	ケリ												○		○						○	○	4	2	+2			
197	26	チドリ	ムナグロ																											
199	27	チドリ	ダイゼン																											
203	28	チドリ	コチドリ							1				1											2	12	▲10	2	13	▲11
210	29	シギ	セイタカシギ																											
219	30	シギ	タシギ		1	4	2	2	2	2	2	2										1			9	1	+8	18	1	17
227	31	シギ	チュウシャクシギ																											
239	32	シギ	クサシギ																											
286	33	カモメ	ユリカモメ																											
339	34	ミサゴ	ミサゴ																							2	▲2			

別表3-2 2022年 早朝調査時に観察した鳥リスト(全種)

目録 No.	No.	科名	種名	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	22年観 察日数	21年観 察日数	前年比 増減	22年 個体数	21年 個体数	前年比 増減
342	35	タカ	トビ								○														1		+1			
354	36	タカ	ツミ																											
355	37	タカ	ハイタカ																○						1	1				
356	38	タカ	オオタカ		○											○									2	1	+1			
357	39	タカ	サシバ																											
383	40	カワセミ	カワセミ	○	○		○		○		○			○	○	○	○		○		○		○		12	13	▲1			
388	41	キツツキ	アリスイ																											
390	42	キツツキ	コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
397	43	キツツキ	アオゲラ																											
401	44	ハヤブサ	チョウゲンボウ																							1	▲1			
407	45	ハヤブサ	ハヤブサ																											
412	46	サンショウクイ	サンショウクイ								1					1									2	3	▲1	2	4	▲2
418	47	カササギヒタキ	サンコウチョウ																											
420	48	モズ	モズ																							8	▲8			
427	49	カラス	カケス																											
435	50	カラス	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
436	51	カラス	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
442	52	シジュウカラ	ヤマガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	17	+2			
443	53	シジュウカラ	ヒガラ																											
445	54	シジュウカラ	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
452	55	ヒバリ	ヒバリ																											
457	56	ツバメ	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
461	57	ツバメ	イワツバメ		○												○		○						3		+3			
463	58	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
464	59	ウグイス	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
465	60	ウグイス	ヤブサメ				1																		1		+1	1		1
466	61	エナガ	エナガ	○	○	○	○	○	○		○			○		○	○				○	○	○	○	14	16	▲2			
477	62	ムシクイ	メボソムシクイ																											
479	63	ムシクイ	エゾムシクイ									1				1	2								3	5	▲2	4	14	▲10
480	64	ムシクイ	センダイムシクイ		1				2		1	7		1	2	2	6	1	2			1	1	1	13	9	+4	28	42	▲14
485	65	メジロ	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
492	66	ヨシキリ	オオヨシキリ																					1	1	3	▲2	1	3	▲2
501	67	レンジャク	ヒレンジャク																											
506	68	ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1			
508	69	ムクドリ	コムクドリ																											

目録 No.	No.	科名	種名	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	22年観 察日数	21年観 察日数	前年比 増減	22年 個体数	21年 個体数	前年比 増減	
514	70	ヒタキ	トラツグミ			1																		1	2	1	+1	2	1	1	
518	71	ヒタキ	クロツグミ	1		1																			2	1	+1	2	1	1	
520	72	ヒタキ	マミチャジナイ																												
521	73	ヒタキ	シロハラ	19	19	23	27	22	24	16	16	3		6	6	2	4	1							14	14		188	242	▲54	
522	74	ヒタキ	アカハラ	1	1	3	3	4	3	3		2				3	1		1		2		3		13	12	+1	30	28	2	
525	75	ヒタキ	ツグミ	82	70	56	52	51	44	45	42	32		26	9	12	6								13	18	▲5	527	1212	▲685	
530	76	ヒタキ	コマドリ				2																		1	1		2	1	1	
534	77	ヒタキ	コルリ																												
536	78	ヒタキ	ルリビタキ																							2	▲2		2	▲2	
540	79	ヒタキ	ジョウビタキ																												
542	80	ヒタキ	ノビタキ																												
549	81	ヒタキ	インヒヨドリ																							1	▲1				
554	82	ヒタキ	コサメビタキ			1		1	1	1					3		2						1		7	7		10	18	▲8	
558	83	ヒタキ	キビタキ				1		1	4	5	6		4	7	10	14	3	3		7	4	1	3	15	13	+2	73	53	20	
561	84	ヒタキ	オオルリ								1						2								2	3	▲1	3	4	▲1	
568	85	スズメ	ニュウナイスズメ	20	5	33	30	10	2	30	10					10									9	7	+2	150	232	▲82	
569	86	スズメ	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1				
573	87	セキレイ	キセキレイ																							1	▲1				
574	88	セキレイ	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	17	+2				
575	89	セキレイ	セグロセキレイ	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○		○		○	○	○	○	16	12	+4				
580	90	セキレイ	ビンズイ	2	3		1	3		1	2	2			1	2	1								10	6	+4	18	9	9	
586	91	アトリ	アトリ	34	36	14	18	29	15	7	35	10			4										10	8	+2	202	38	164	
587	92	アトリ	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	19	18	+1				
588	93	アトリ	マヒワ																							8	▲8		544	▲544	
599	94	アトリ	ウン																												
600	95	アトリ	シメ	10	5	6	19	4	1	4	3	1		4	1	14	1								13	8	+5	73	10	63	
602	96	アトリ	イカル	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○					○	○		15	17	▲2				
610	97	ホオジロ	ホオジロ																							1	▲1				
614	98	ホオジロ	ホオアカ																												
617	99	ホオジロ	カシラダカ																												
623	100	ホオジロ	ノジコ																												
624	101	ホオジロ	アオジ	2	2	8	8	7	4	4	4			1	2	8	1								12	9	+3	51	30	21	
625	102	ホオジロ	クロジ																												
計			22年	34	38	36	37	33	36	34	38	33		29	33	35	37	22	26		23	27	27	26	604	601	+3				
22年 調査人員数				4	3	5	3	4	4	3	4	4	中止	4	4	4	4	5	5	中止	5	4	3	4	76						

別表4-1 2003年～2022年 早朝調査時の鳥の観察回数(日数)

目録 No.	No.	科名	種名	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	全観察 日数	観察年 回数
5	1	キジ	キジ										1											1	1
24	2	カモ	オシドリ			1	2	15								2			1		1	3		25	7
26	3	カモ	オカヨシガモ																				1	1	1
27	4	カモ	ヨシガモ															16	21					37	2
28	5	カモ	ヒドリガモ			1				1	1			1			3	5		2				14	7
30	6	カモ	マガモ	9	15	17	20	13	14		13	1	9	3	4	3	13			3	10	13	10	170	17
46	7	カモ	キンクロハジロ													20								20	1
32	8	カモ	カルガモ	18	16	20	21	20	20	20	18	19	20	20	20	6	20	20	21	21	21	18	19	378	20
62	9	カイツブリ	カイツブリ	16	18	20	21	20	20	20	18	20	21	20	20	20	20	20	21	21	21	18	19	394	20
74	10	ハト	キジバト	18	18	20	21	20	20	20	19	20	21	20	20	20	20	20	21	21	21	18	19	397	20
78	11	ハト	アオバト	1	4	1	6		2		2	1	8	1	2	3		1	6	2	8		3	51	16
127	12	ウ	カワウ	18	13	19	21	20	20	17	13	17	20	19	20	19	19	19	20	21	20	18	19	372	20
139	13	サギ	ゴイサギ				1														4			5	2
141	14	サギ	ササゴイ		1		1						1					1						4	4
144	15	サギ	アオサギ	15	13	18	16	16	14	18	16	16	19	16	18	19	15	14	18	18	19	17	17	332	20
146	16	サギ	ダイサギ			2	3	3	6	8	14	18	13	11	8	6	6	13	1	5	1	6	16	140	18
147	17	サギ	チュウサギ										1											1	1
148	18	サギ	コサギ	6	12	3	15	15	6	19	9	12	12	8	5	3	4	4		3	19	15	3	173	19
166	19	クイナ	クイナ												1									1	1
174	20	クイナ	バン	11		13	8	13		2			4	14	3	12	19	17			2			118	12
175	21	クイナ	オオバン																			16	9	25	2
185	22	カッコウ	ホトトギス											1			1							2	2
187	23	カッコウ	ツツドリ						1						1			2						4	3
192	24	アマツバメ	アマツバメ				1		2				1											4	3
195	25	チドリ	ケリ				1	3	1	2		2		3	1					2	1	2	4	22	11
197	26	チドリ	ムナグロ				1																	1	1
199	27	チドリ	ダイゼン								1													1	1
203	28	チドリ	コチドリ	3	5	12	4	1	5	9	6	5	1	3	1	1	8	1	1	1	6	12	2	87	20
210	29	シギ	セイタカシギ																		4			4	1
219	30	シギ	タシギ								1										4	1	9	15	4
227	31	シギ	チュウシャクシギ					1					1											2	2
239	32	シギ	クサシギ			1																		1	1
286	33	カモメ	ユリカモメ	1																				1	1
339	34	ミサゴ	ミサゴ				1										1	1		1		2		6	5

別表4-2 2003年～2022年 早朝調査時の鳥の観察回数(日数)

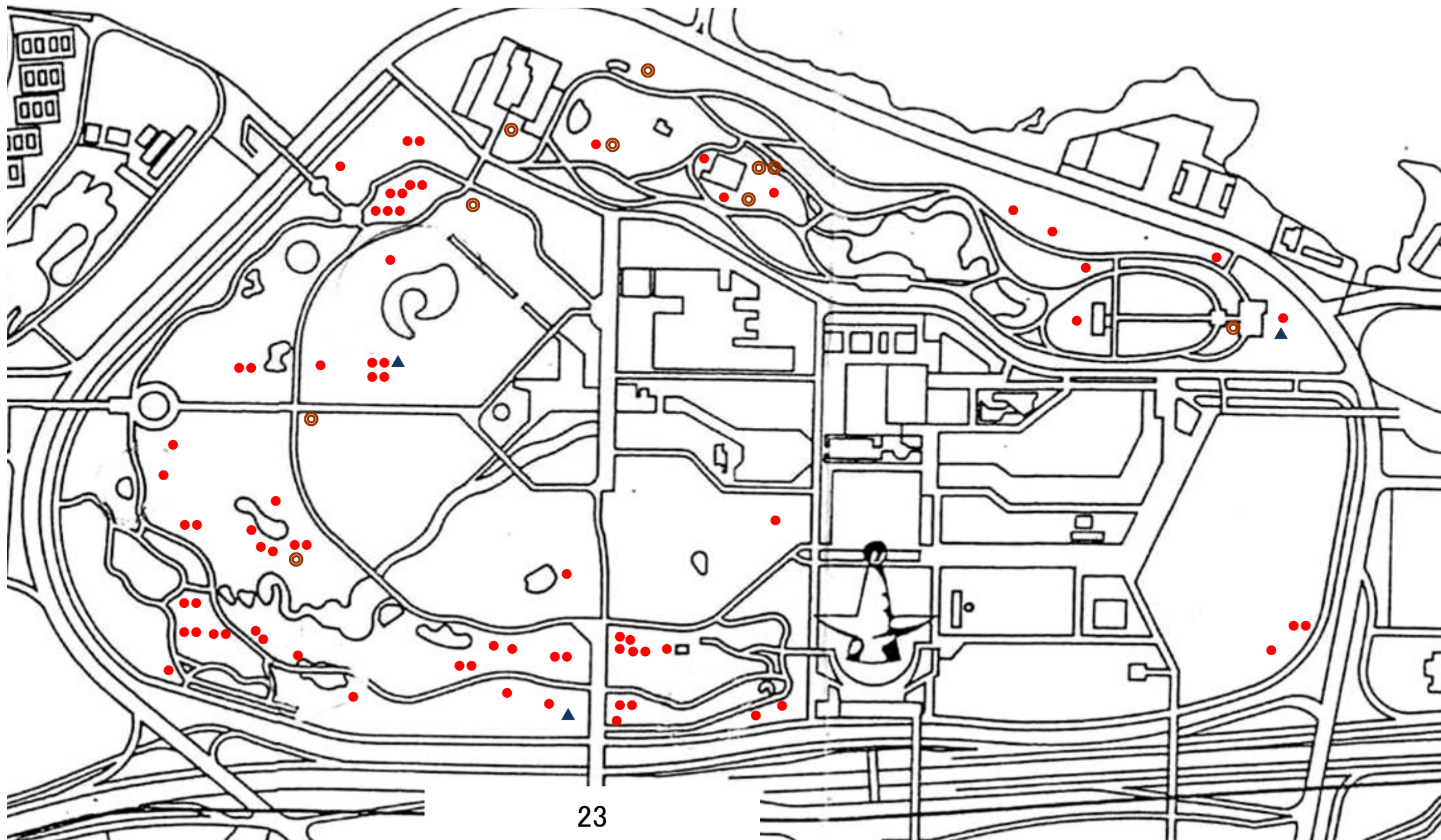
目録 No.	No.	科名	種名	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	全観察 日数	観察年 回数
342	35	タカ	トビ								1	1						1		1	1		1	6	6
354	36	タカ	ツミ				1				1													2	2
355	37	タカ	ハイタカ			2		2			1									2	4	1	1	13	7
356	38	タカ	オオタカ	2	1	1	2	7	6	5	8	13	1	5		2	2	1	3	1	1	1	2	64	19
357	39	タカ	サシバ													1								1	1
383	40	カワセミ	カワセミ	1	6	6	11	16	7	2	3	3	6	4	5	6	11	18	12	15	15	13	12	172	20
388	41	キツツキ	アリスイ				1			1			1		1	1	1	1						6	6
390	42	キツツキ	コゲラ	19	16	18	21	20	20	20	19	20	21	20	19	19	19	20	21	21	21	18	19	391	20
397	43	キツツキ	アオゲラ	2				1																3	2
401	44	ハヤブサ	チョウゲンボウ													2	1	6	1	1	2	1		14	7
407	45	ハヤブサ	ハヤブサ			2						1												3	2
412	46	サンショウクイ	サンショウクイ						2	1		2		1		2	2	1	1	7	6	3	2	30	12
418	47	カササギヒタキ	サンコウチョウ														1							1	1
420	48	モズ	モズ		1	3				1	1	1		7	1	9	14	6			1	8		53	12
427	49	カラス	カケス			5		2				2												9	3
435	50	カラス	ハシボソガラス	20	18	20	21	20	20	20	19	20	21	20	20	20	20	20	21	21	21	18	19	399	20
436	51	カラス	ハシブトガラス	20	18	20	21	20	20	20	19	20	21	20	20	20	20	20	21	21	21	18	19	399	20
442	52	シジュウカラ	ヤマガラ	10	10	13	18	19	17	17	17	16	18	17	18	16	17	18	21	21	21	17	19	340	20
443	53	シジュウカラ	ヒガラ															2						2	1
445	54	シジュウカラ	シジュウカラ	20	18	20	21	20	20	20	19	20	21	20	20	20	20	20	21	21	21	18	19	399	20
452	55	ヒバリ	ヒバリ														1			1				2	2
457	56	ツバメ	ツバメ	15	15	20	21	19	20	19	19	20	21	20	20	20	20	20	21	21	21	18	19	389	20
461	57	ツバメ	イワツバメ																		1		3	4	2
463	58	ヒヨドリ	ヒヨドリ	20	16	18	21	18	20	18	19	20	21	20	20	20	20	20	21	21	21	18	19	391	20
464	59	ウグイス	ウグイス	11	17	7	6	6	9	14	18	20	20	19	19	20	20	10	14	16	21	18	19	304	20
465	60	ウグイス	ヤブサメ	2				1	3														1	7	4
466	61	エナガ	エナガ	13	12	14	16	18	18	18	17	15	18	16	17	18	19	17	18	18	20	16	14	332	20
477	62	ムシクイ	メボソムシクイ	2	1		2				2	1							1	1				10	7
479	63	ムシクイ	エゾムシクイ	2	2	7	1	4	5	5	1	1	4	4	4	2	5	6	4	5	6	5	3	76	20
480	64	ムシクイ	センダイムシクイ	7	8	10	7	9	11	10	11	11	11	11	10	13	11	10	12	13	17	9	13	214	20
485	65	メジロ	メジロ	20	17	20	21	20	20	18	19	20	21	20	20	20	20	20	21	21	21	18	19	396	20
492	66	ヨシキリ	オオヨシキリ	1			1		1			2	2	1	1			2	1	2	4	3	1	22	13
501	67	レンジャク	ヒレンジャク				5	2							1						4			12	4
506	68	ムクドリ	ムクドリ	20	18	20	21	18	20	20	18	19	21	20	20	20	20	20	21	21	20	18	19	394	20
508	69	ムクドリ	コムクドリ						1	1				1					1	1				5	5

別表4-3 2003年～2022年 早朝調査時の鳥の観察回数(日数)

目録 No.	No.	科名	種名	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	全観察 日数	観察年 回数
514	70	ヒタキ	トラツグミ	1						1		1						1			2	1	2	9	7
518	71	ヒタキ	クロツグミ	2	2		1		5	2	2	4		1	1					9	2	1	2	34	13
520	72	ヒタキ	マミチャジナイ				21		2	4		1	11				1	1		5	1			47	9
521	73	ヒタキ	シロハラ	14	10	13	21	20	18	14	17	18	17	18	14	13	16	19	16	19	21	14	14	326	20
522	74	ヒタキ	アカハラ	3	4	6	17	11	18	17	14	18	11	8	10	8	7	16	15	19	19	12	13	246	20
525	75	ヒタキ	ツグミ	20	18	17	21	20	19	20	19	20	14	20	19	18	19	20	20	19	21	18	13	375	20
530	76	ヒタキ	コマドリ	2	1						1				2		2		2	6		1	1	18	9
534	77	ヒタキ	コルリ		1			2						1						2				6	4
536	78	ヒタキ	ルリビタキ	1		3	5	2	4		4	4		3	2	4		3			1	2		38	13
540	79	ヒタキ	ジョウビタキ																		1			1	1
542	80	ヒタキ	ノビタキ				4	2	1		3	1	2								1			14	7
549	81	ヒタキ	イソヒヨドリ													1						1		2	2
554	82	ヒタキ	コサメビタキ		1	1	3	6	4	1	7	3	5	3	4	1	5	6	3	5	8	7	7	80	19
558	83	ヒタキ	キビタキ	9	4	9	13	9	17	11	14	15	17	17	18	20	16	19	20	20	17	13	15	293	20
561	84	ヒタキ	オオルリ	8	6	9	18	10	12	10	10	9	4	11	11	15	4	6	6	13	9	3	2	176	20
568	85	スズメ	ニューナイスズメ	5	8	12	14	13	12	15	14	16	13	15	12	10	7	11	7	10	13	7	9	223	20
569	86	スズメ	スズメ	19	18	20	21	20	20	20	19	20	21	20	20	20	20	20	21	21	21	18	19	398	20
573	87	セキレイ	キセキレイ						8	1				1	1	1			3	1	1	1		18	9
574	88	セキレイ	ハクセキレイ	10	7	10	12	14	14	16	11	20	21	17	10	12	20	14	18	19	19	17	19	300	20
575	89	セキレイ	セグロセキレイ	12	16	18	19	19	19	19	16	14	19	13	2	12	16	10	15	18	19	12	16	304	20
580	90	セキレイ	ビンズイ	7	3	5	4	2	8	5	5	5	3	4	6	2	2	8	1	5	5	6	10	96	20
586	91	アトリ	アトリ	3	12	4	1	14	6	12	9	3		7	8	6	7	9	10	6	17	8	10	152	19
587	92	アトリ	カワラヒワ	19	18	20	21	20	20	20	19	20	21	20	20	20	19	20	21	21	21	18	19	397	20
588	93	アトリ	マヒワ	7				4		14		18		11		1	3					8		66	8
599	94	アトリ	ウソ											1										1	1
600	95	アトリ	シメ	10	11	6	17	9	17	20	18	20		13	15	2	14	16	7	20	21	8	13	257	19
602	96	アトリ	イカル	13	18	17	14	20	16	18	14	17	14	16	20	13	19	20	20	17	21	17	15	339	20
610	97	ホオジロ	ホオジロ		2															1		1		4	3
614	98	ホオジロ	ホアカ											1										1	1
617	99	ホオジロ	カシラダカ											1				1						2	2
623	100	ホオジロ	ノジコ					1													2			3	2
624	101	ホオジロ	アオジ	17	14	15	13	18	16	14	15	13	16	16	15	14	14	14	11	15	19	9	12	290	20
625	102	ホオジロ	クロジ	2	2											3			2					9	4
計				51	48	50	58	53	54	51	51	55	50	58	51	54	52	57	50	58	63	58	54		102
観察日数				20	18	20	21	20	20	20	19	20	21	20	20	20	20	20	21	21	21	18	19	399	

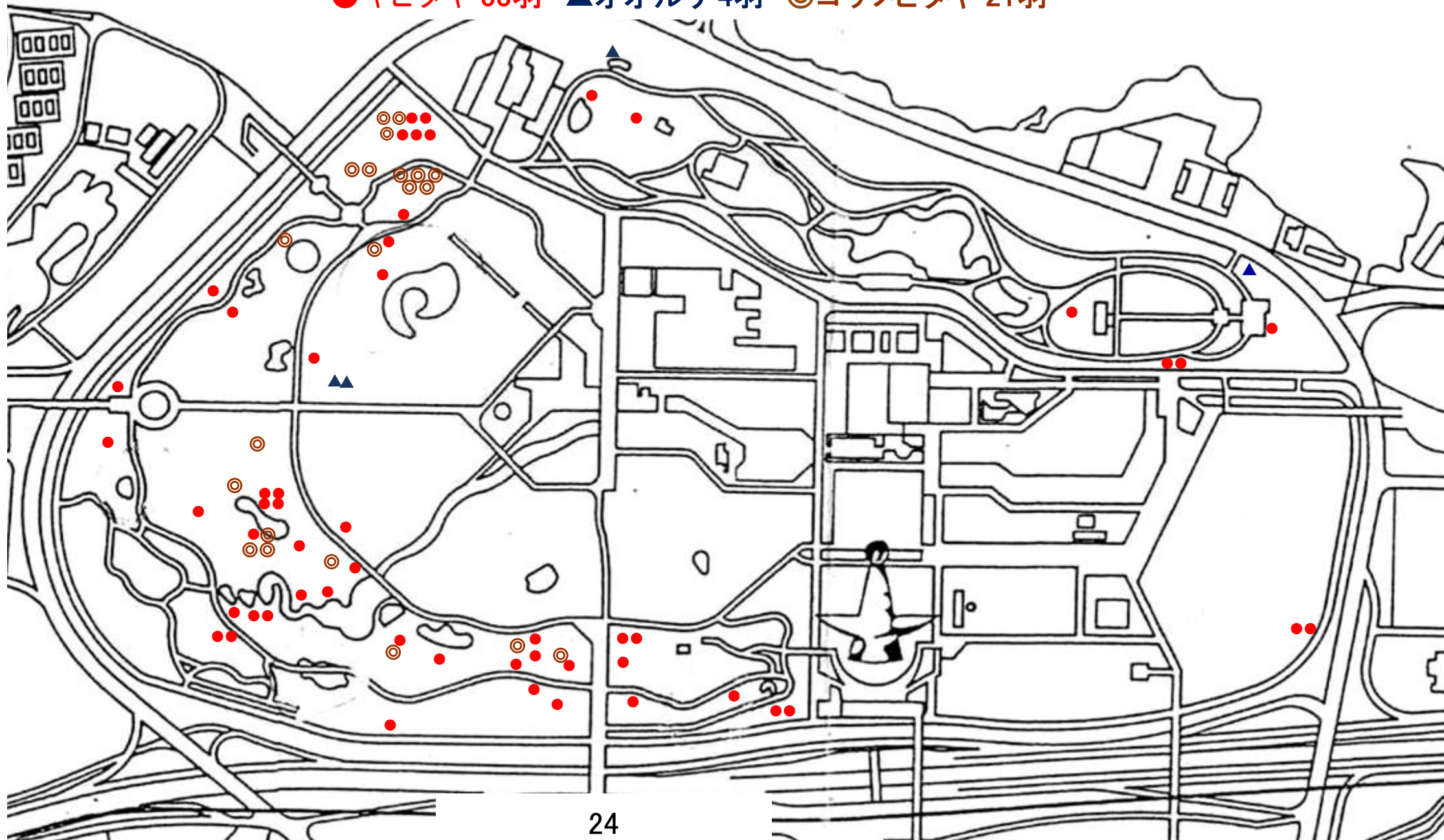
別図①-① 2022年春の渡り鳥 ヒタキ科(キビタキ属、オオルリ属、サメビタキ属)

●キビタキ 73羽 ▲オオルリ 3羽 ◎コサメビタキ 10羽



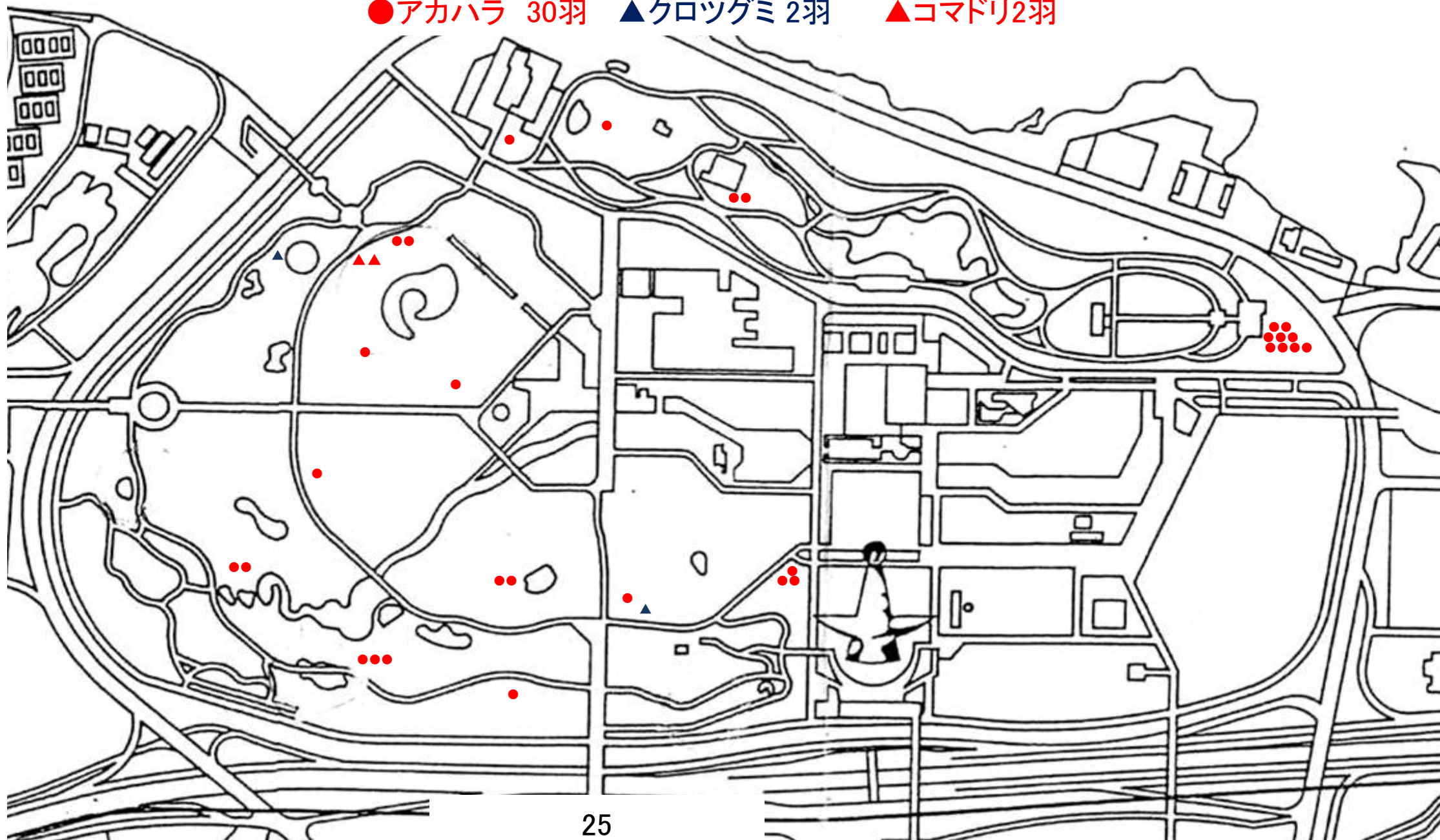
別図①-② 2021年春の渡り鳥 ヒタキ科(キビタキ属、オオルリ属、サメビタキ属)

●キビタキ 53羽 ▲オオルリ 4羽 ◎コサメビタキ 21羽



別図②-① 2022年春の渡り鳥 ヒタキ科ツグミ属

●アカハラ 30羽 ▲クロツグミ 2羽 ▲コマドリ2羽

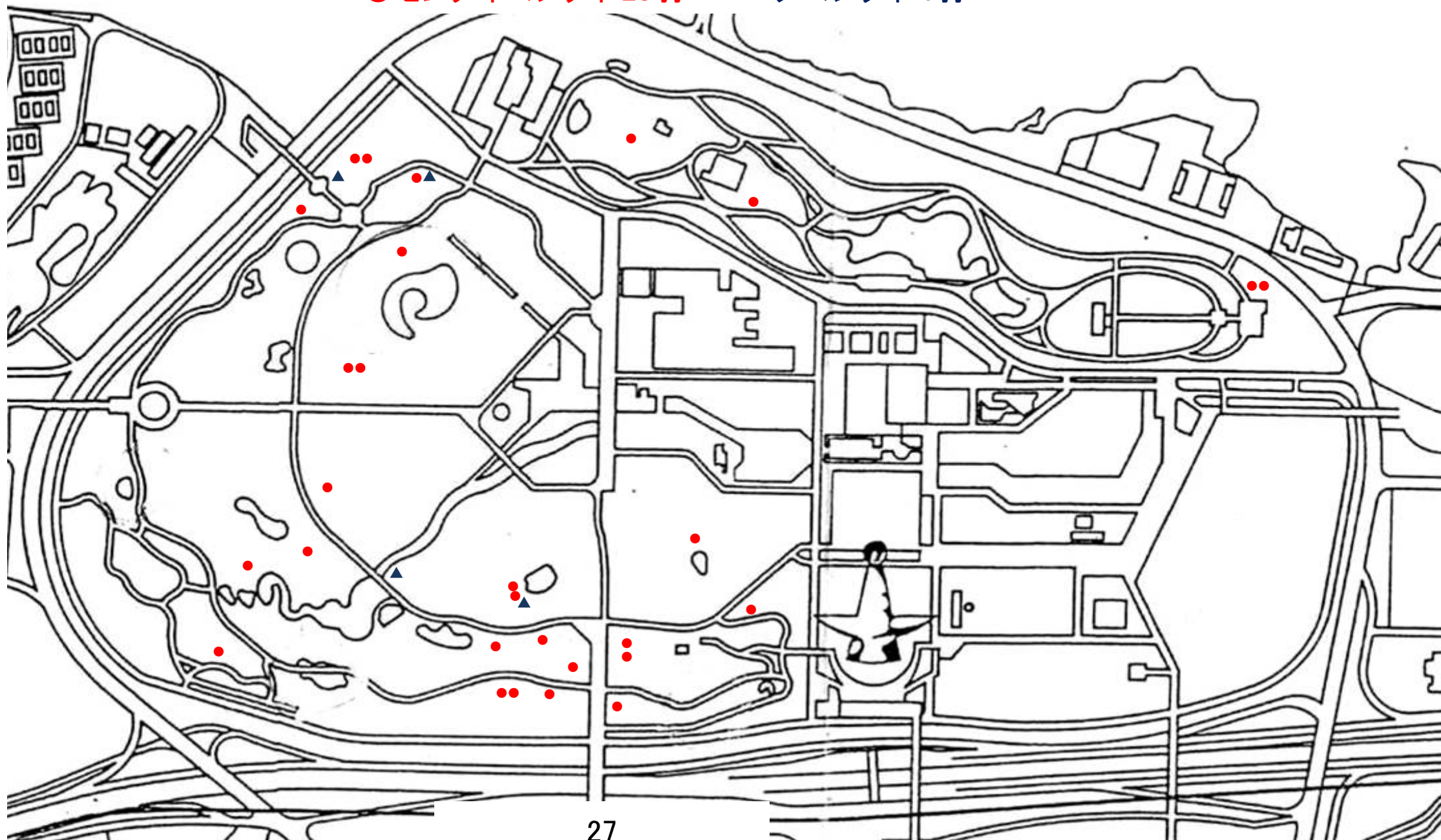


別図②-② 2021年春の渡り鳥 ヒタキ科ツグミ属、コマドリ属
●アカハラ 28羽 ▲クログミ 1羽 ▲コマドリ1羽



別図③-① 2022年春の渡り鳥 ムシクイ科

●センダイムシクイ 28羽 ▲エゾムシクイ 4羽



別図③-② 2021年春の渡り鳥 ムシクイ科

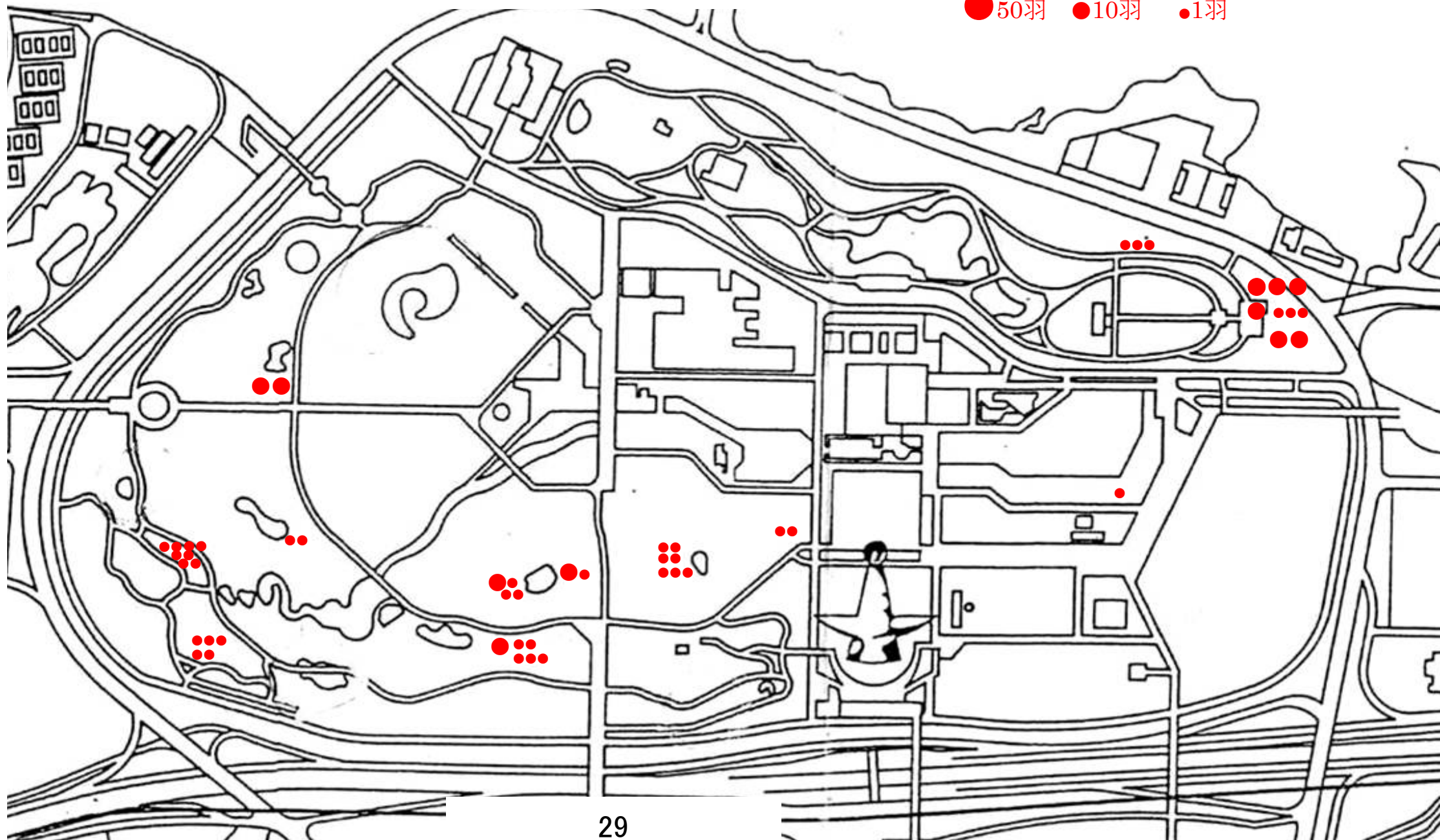
●センダイムシクイ 42羽 ▲エゾムシクイ 14羽



別図④ー① 2022年春の渡り鳥 スズメ科

●ニューナイスズメ 152羽

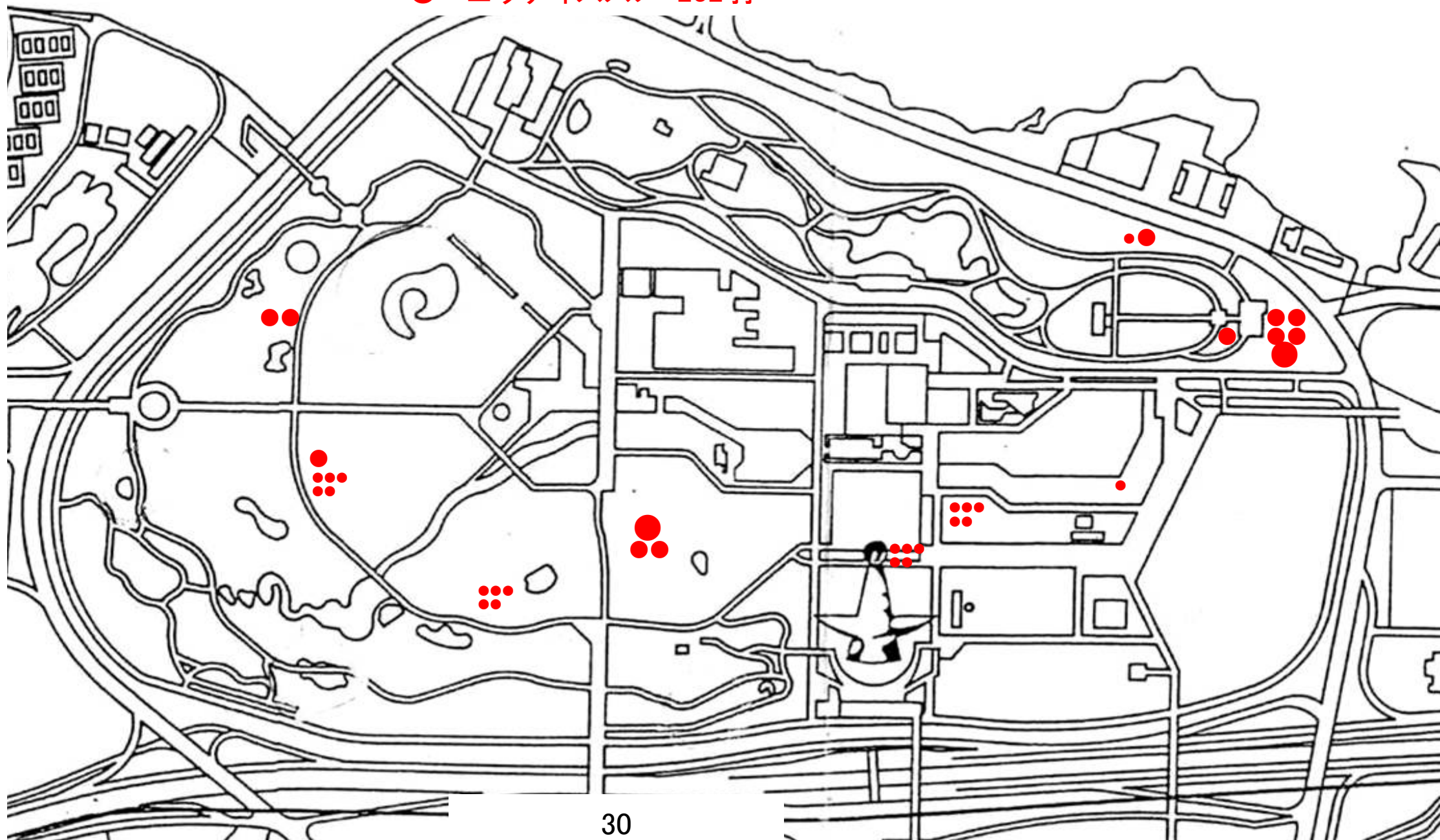
●50羽 ●10羽 ●1羽



2021年春の渡り鳥 スズメ科

●ニューナイスズメ 232羽

(● 50羽 ● 10羽 ● 1羽)



別図⑤ー① 2022年春の渡り鳥 その他の渡り鳥

●コチドリ 2羽

×タシギ18羽

■サンショウクイ 2羽

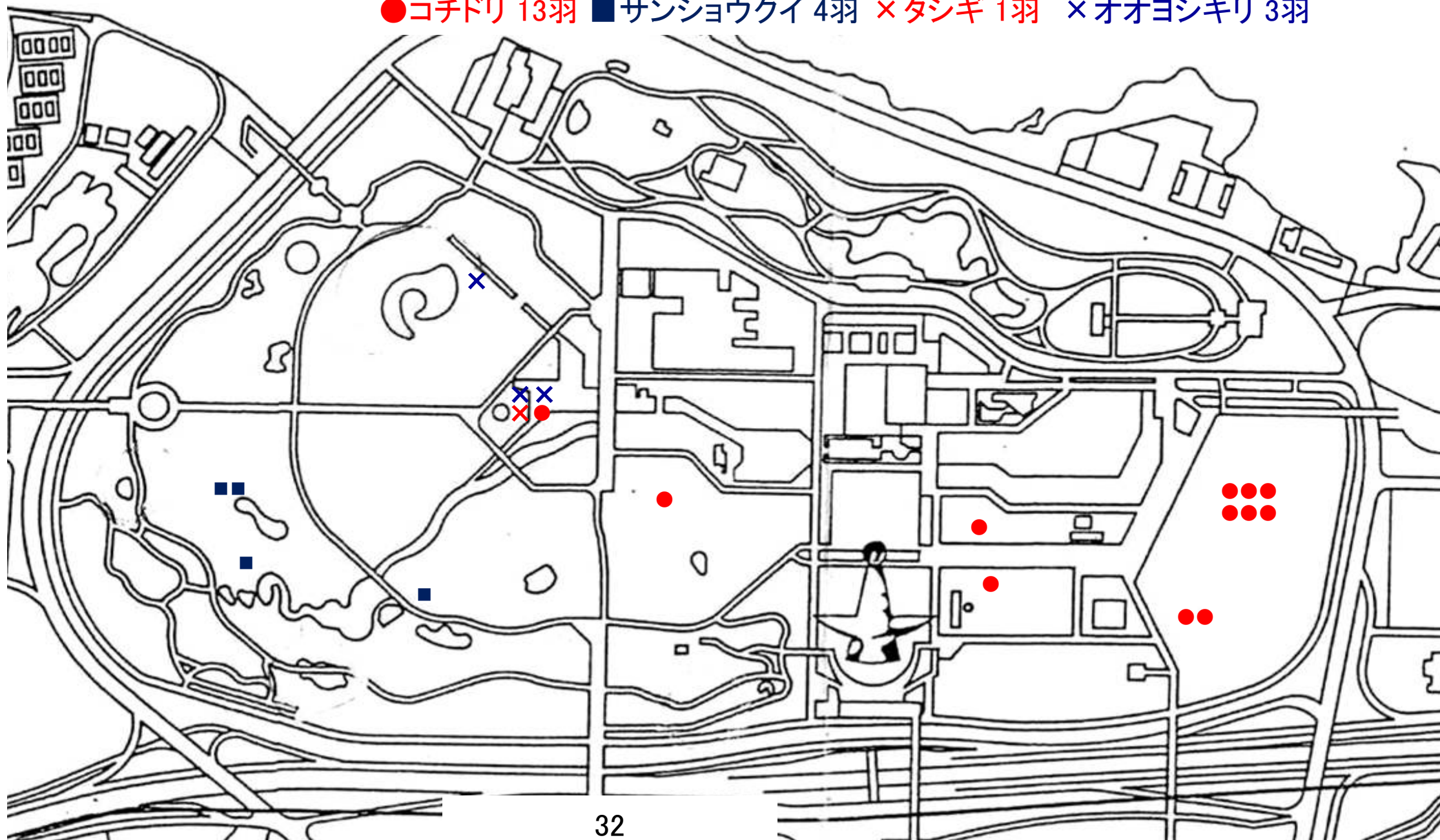
×オオヨシキリ 1羽

●ヤブサメ 1羽



別図⑤－② 2021年春の渡り鳥 その他

●コチドリ 13羽 ■サンショウクイ 4羽 ×タシギ 1羽 ×オオヨシキリ 3羽



別図⑥（参考） 2022年春の渡り鳥調査 標準コース図 （20220410）

